

## タイヤを上手に使っていただくために

### 危険防止のために

#### 空気充填

**▲危険** ○破裂時の危険を避けるため、タイヤを安全な中に入れる等、安全措置を講じた上、空気を充填してください。

○パンク修理したタイヤに空気を充填する際は、頭部を保護する措置(ヘルメット等の装着)及び眼部を保護する措置(ゴーグル等の装着)を講ずることを強く推奨します。

注)上記は小形トラック用タイヤ、トラック及びバス用タイヤに適用。

○空気充填時は充填後タイヤサイドウォール部からの異音が聞こえたら、ただちに作業を中止し、避難してください。

**▲危険** ○自動車用タイヤの組み立て時のビードシールタイプは、300kPa(3.0kgf/cm<sup>2</sup>)とし、これを超える圧は注入しないでください。

○ビードシールタイプを注入し、ビードシールタイプとは、タイヤ両側面にビードがリムのシャフト部に互に均等についていること(均等)についていない場合は圧入して再度空気圧を調整し、その後使用空気圧に充填または調整してください。なお、Tタイプ/折りたたみ式急用用タイヤ、ランフラットテクノロジー採用タイヤ(エクステンディッドモビリティタイヤ)、その他製造業者の指定がある場合にはそれに従ってください。

○オートチューブ調整圧を上限として空気圧を注入し、タイヤの両側のビードがリムのシャフト部に互に均等についていること(均等)についていない場合は再度空気圧を調整し、その後使用空気圧に充填または調整してください。なお、Tタイプ/折りたたみ式急用用タイヤ、ランフラットテクノロジー採用タイヤ(エクステンディッドモビリティタイヤ)、その他製造業者の指定がある場合にはそれに従ってください。

**▲危険** ○コードに達している外傷・ゴム割れのあるタイヤは、使用しないでください。タイヤが損傷し、事故につながるおそれがあります。修理が可能な否かについてはタイヤ販売店等にご相談ください。

### 安全維持・性能維持のために

#### タイヤ選択時の注意

●自動車製作者が指定した標準タイヤまたはオプションタイヤの使用を基本とし、その他のタイヤを選定する時はタイヤ販売店等にご相談ください。

●積雪または凍結路では、冬用タイヤを全車輪に装着してください。夏用タイヤ(ノーマルタイヤ)は、積雪または凍結路においては、冬用タイヤに比べて制動距離が長くなります。また、冬用タイヤは全車輪に装着しないと挙動が安定しません。尚、冬期が過ぎたら一般路(乾燥・湿潤路)走行に適した夏用タイヤに交換することを推奨します。

●全車輪とも、同一のサイズ、種類、構造、カテゴリーのタイヤを使用してください。但し、自動車製作者またはタイヤ製作者の異なる個別の指示がある場合は、その指示に従ってください。

●※カテゴリーは夏用タイヤ、冬用タイヤ等をいいます。特に四輪駆動車にはご注意ください。

●タイヤの種類、構造、カテゴリーの異なるタイヤを同一車輪に使用すると、タイヤ性能が異なるため、車の安定性を損ない、事故等につながるおそれがあるためで避用しないでください(緊急用タイヤを除きます)。

●チューブ、フラップは、タイヤサイズと同一サイズ表示のあるもので、バルブは車両およびホイールに適合するものを使用してください。

●新品のチューブタイプのタイヤには、新品のチューブ、フラップを使用してください。

●新品タイヤを装着するとき、チューブレスタイヤには新品のチューブレスバルブの使用を推奨します。

●ホイールの選定は販売店等にご相談し、タイヤサイズおよび車両に適合したホイールを使用してください。また、チューブレスタイプには必ずチューブレス用ホイールを使用してください。

#### 異物・傷の点検

○ホイールには、亀裂、変形等の損傷や著しい変色がないことをご確認ください。

●タイヤに亀裂がないか、または釘、金属片、ガラス等が刺さっていたり、溝に石その他異物を噛み込んでいないかご確認ください。異物を発見した時は、タイヤ販売店等にご相談の上、取り除いてください。

#### ならし走行

●新品タイヤ装着時はタイヤがなれるまで、60km/h以下の走行速度で200km以上の走行距離のならし走行を行ってください。

#### タイヤ・ホイール装着時の注意

○チューブレスタイヤは、ビード周辺の傷などが空気漏れを起こすことがありますので、リム組み時には、必ず当社推奨の潤滑剤を塗布してください。

○タイヤ内の異物や水分によりタイヤの機能を損なう場合があります。リム組み前タイヤ内を点検し、異物や水分を取り除いてください。

○コンプレッシャー内の水分もタイヤ内に入る場合がありますので、定期的にドレイン抜きをしてください。

○空気充填後、バルブコアからの空気漏れ、リム部やタイヤとリムの間(ビード周辺)や、バルブコアからの空気漏れを確認してください。必要に応じてタイヤ店等に修理のお願いをください。

○空気充填時の異常に対応するため、三方位および強制排気装置の設置を推奨します。

●異常振動・偏摩耗を防ぐために、ホイールランは必ず調整してください。

○サイドプロテクト付きタイヤは、サイドプロテクト側を外側に向けて装着してください。

○タイヤサイド部に回転方向または取付方法等の指定があるタイヤは、その指定の通りに正しく装着してください。

**▲警告** ○破裂の危険がありますので、タイヤを車両に装着した時は車体と接触するおそれがないか、必ずご確認ください。

○車体からタイヤ・ホイールがみみ出ないようにしてください。オーバークラウニングによるような装着、およびフェンダー加工、車両の改造等による装着は、法令で禁止されています。絶対に避けてください。

○補輪タイヤ使用の場合、外径差が大きいたる早期損傷や偏摩耗により安全性、経済性が損なわれます。補輪での外径差は、小型トラック用タイヤでは、ラジアルタイヤは6mm以内、バイアスタイヤは8mm以内であることをご確認ください。許容差内の外径差がある場合は、小さい方を内側に装着してください。

○ホイールを外した時は、ホイールボルト、ホイールナット、ディスクホイール等に折損、亀裂、変形、著しい錆び等の損傷がないことを確認してください。

○アルミホイールからスチールホイール、またはスチールホイールからアルミホイールに交換する場合、ホイールボルト、ナット(JIS方式の場合のみ交換)を専用のものに交換してください。

○ホイールナットはトルクレンチ等トルクを測定できる器具を使用し、規定トルクで締め付けを行うにしてください。インパクトレンチで締め付けの場合は、締め付け時間、圧縮空気圧等に留意し、締め過ぎないように十分注意を払い、トルクレンチでの確認等を併用してください。

**▲警告** ●ホイールを単体へ取り付け、50〜100km走行後、ホイールナットを規定トルクで増し締めしてください。

○リムボルト/ナットは、前輪と後輪を別々にしてください。後輪では、特に使用条件の過酷なシングルの遊輪(最後輪)での使用は避けてください。安全性・経済性を損なう場合があります。

#### 空気圧に関する注意

**▲警告** ○エアコンプレッサーの調整弁は、タイヤ破裂の危険があるため、タイヤの使用空気圧に応じ、下表より正しく調整してください。

| エアコンプレッサー調整弁の最高調整空気圧  |                                    |
|---|------------------------------------|
| タイヤの使用空気圧区分   | 調整弁の最高調整空気圧                        |
| 400kPa(4.0kgf/cm <sup>2</sup> )まで                                     | 500kPa(5.0kgf/cm <sup>2</sup> )    |
| 400kPa(4.0kgf/cm <sup>2</sup> )超〜600kPa(6.0kgf/cm <sup>2</sup> )まで    | 600kPa(6.0kgf/cm <sup>2</sup> )    |
| 600kPa(6.0kgf/cm <sup>2</sup> )超〜900kPa(9.0kgf/cm <sup>2</sup> )まで    | 1,000kPa(10.0kgf/cm <sup>2</sup> ) |
| 900kPa(9.0kgf/cm <sup>2</sup> )超〜1,200kPa(12.0kgf/cm <sup>2</sup> )まで | 1,300kPa(13.0kgf/cm <sup>2</sup> ) |

**▲警告** ●タイヤの空気圧は、走行前の冷えた時に、エアゲージにより定期的(最低1ヶ月に1度)に点検し、自動車製作者が指定した指定空気圧を下限として調整してください。空気圧に過不足があると、タイヤが損傷したり、事故等につながるおそれがあります。

●特に偏平タイヤの空気圧不足は、見た目によりわかりづらいため、必ずエアゲージによる点検をしてください。

●走行時および走行後は熱により空気圧が高くなりますが、決して抜かないでください。

●自動車製作者の指定空気圧は車両の取扱説明書、ドア付近等に表示されています。不明の場合はタイヤ販売店等にご相談ください。

●タイヤの性能を十分に発揮するためには、適正空気圧で使うことが大切です。不適正な空気圧で使いますと、操縦安定性の低下やタイヤ損傷の原因となります。

●スパアタイヤの空気圧は、定期用(最低1ヶ月に1度)に点検し、自動車製作者の指定した値に調整してお使ってください。

●補輪間空気圧差が大きいたる、タイヤ損傷、偏摩耗等により経済性、安全性が損なわれます。補輪タイヤの空気圧は、同一になるよう充填してください。

#### 摩耗限度

**▲警告** ●タイヤの溝深さの使用限度は、スリップサインが露出する残り溝1.6mmです。それ以前に新品タイヤとお取り替えください。

**▲警告** ●積雪および凍結路走行の場合は、冬用タイヤの残溝量が新品時の50%以上あることを確認してください。接地部分にフラットタイヤのみが鋭けられたり、氷の残量が多い場合は、それが露出しているか否かで判断してください。残りの溝深さが新品の50%未満のタイヤは、冬用タイヤとしては使用しないでください。夏用タイヤとして継続使用する場合は、タイヤの溝深さの使用限度はスリップサインが露出する残り溝1.6mmです。すり減ったタイヤは運動性能が低下したり、濡れた路面でスリップしやすくなるなど危険です。それ以前に新品タイヤとお取り換えください。

●80km/h以上の高速で走行する場合のタイヤの使用限度は、小型トラック用タイヤで残り溝が2.4mm以上あることを確認してください。

#### 安全走行ポイント

**▲警告** ●走行中に車両が操縦不安定または異常な音および振動を感じたときは、すみやかに安全な場所に停車し、車両およびタイヤを点検してください。タイヤに変形等異常がないか確認してください。また、外観上、異常がなくとも、できる限り低速で移動し、タイヤ販売店等へ点検を依頼してください。

**▲警告** ●急加速、急減速、急旋回および急制動は危険ですので避けてください。特に、湿潤路、積雪路および凍結路は必ずゆとり、事故につながるおそれがあるため、急カーブでは減速するなど、道路状況に応じた適切な運転をしてください。

**▲警告** ●タイヤを傷つければおそれがあるため、道路の縁石等とタイヤの側面を接触させたり、道路の上凹や突起物の乗り越しなどは避けてください。

●走行中は、常に走行速度に応じた車間距離を確保してください。特に、湿潤路、積雪路および凍結路走行時は十分車間距離を確保してください。

●タイヤのカテゴリーやサイズを変更した場合は、タイヤの運動特性が変化するため、なれるまでは走行速度等に注意して運転してください。

●タイヤの制動性能は、車両の走行速度、路面状況、タイヤの摩耗量およびカテゴリー(夏用タイヤ、冬用タイヤ等)により異なります。冬用タイヤは積雪路および凍結路面性能を重視しています。特に乾燥路および凍結路を使用する場合は、実際の交通(速度)規制に従い、走行速度に留意し、急減速、急制動、急旋回を避け、安全運転に心がけてください。

●安全走行を確保するため、タイヤ点検時に合わせて、ホイールバルブに劣化、亀裂がないことを点検してください。ホイールバルブに劣化、亀裂がある場合はタイヤ販売店等にご相談ください。また、バルブキャップをしりこみ締め付けているかどうか必ず確認してください。

●修理箇所以外での損傷や異音が発生する場合は、控えてください。

○緊急用タイヤ、パンク対応急修用器具で修理したタイヤおよびランフラットテクノロジー採用タイヤ(エクステンディッドモビリティタイヤ)のパンク時の使用に関しては、自動車製作者の指定に従ってください。

○ホイールボルト、ホイールナット、ディスクホイール等に折損(伸び、やせ含む)、亀裂、変形、著しい錆び等の異常がない事を確認してください。

#### 美化・保護剤

○市販の瞬間バンク修理剤またはタイヤつやだし剤等で、タイヤに劣化等有害な影響を及ぼすものは使用しないでください。

○シリコンワックス分が含まれているタイヤ美化剤やリム組み潤滑剤を塗布する場合は、トレッド表面(接地部分)に付着しないように注意してください。もし付着した場合は洗剤で洗って走行してください(目薬正し乾燥路10km前後)。

#### タイヤ保管

○タイヤ、チューブは、直射日光、雨および水、油類、スロープ類の熱源および電気火花の出る装置に近い場所などに保管しないでください。

○タイヤ単体での保管の場合、特に内面に水や異物が入らないように保管してください。

○長期間、取り外し保管しますと、タイヤ内部の薬品がしみ出た床を汚すおそれがありますので控えてください。もし床面に保管する場合は、段ボール等厚い敷物を敷いてください。

○タイヤ・ホイールセットでの保管の場合は、接地面の変形を防ぐため、なるべく横置きに保管してください。また、タイヤ圧を使用時の1/2程度に落とし、ホイールバルブにはバルブキャップを取り付けて保管してください。

#### 長期経過タイヤの点検・交換について

●タイヤは自動車の安全にとって重要な役割を担っています。一方、タイヤはさまざまな材料からできたゴム製品であり、ゴムの特性が経時化するのに伴い、タイヤの特性も変化します。その特性の変化はそれら環境条件・保管条件および使用方法(荷重・速度・空気圧)などに左右されますので、点検が必要です。従って、お客様による日常点検に加え、使用開始後5年以上経過したタイヤについては、継続使用に適合しているかどうか、すみやかにタイヤ販売店等での点検を受けられることをお勧めいたします。また、同時にスパアタイヤについても点検を受けられることを推奨いたします。また、外観上、使用可能なように見えても(溝深さが法律に規定されている値ですすり減っていない場合も)製造10年(注)経過したタイヤ(含むスパアタイヤ)は新しいタイヤに交換されることをお勧めいたします。なお、車両メーカーがその車の特性からタイヤの点検や交換の時期をオーナーズマニュアル等に記載している場合もありますので、その記載内容についてもご確認ください。(注：ここに記載した10年という年数は、あくまで目安であって、そのタイヤの実際の使用履歴(使用距離)によって異なる場合があります。また、安全上の観点があるかもしれないことを示す時期)を示すものではありません。従って、環境条件・保管条件および使用方法によって、この年数を超過したタイヤであっても継続使用に適している場合もあれば、この年数を経過していないタイヤであっても上記の環境条件等によって交換が必要がある場合があることにご注意ください。また、この10年という年数およびタイヤ販売店による保証(保証期間)は品質保証期間・期間を示すものではありません)。

●タイヤの摩耗は、駆動輪と操舵輪等装着位置によって受ける力が異なるため、均一にはなりません。異常振動・異音の防止およびタイヤ寿命を延ばすため、位置交換(ローテーション)を適宜実施してください。

●タイヤの位置交換は、車両の使用条件に合わせて、スパアタイヤも含め、適正な方法で定期的に行ってください(但し、Tタイプ/緊急用タイヤは除く)。

#### 過積載

**▲警告** ●タイヤが損傷し、事故につながるおそれがあるため、車両に指定された積載量を超えた積載、定員を超えた乗車はしないでください。

#### ホイール・アラメント

●車両の足回りに異常が生じますと操縦安定性不良、異常摩耗が発生する場合がありますので、適宜ホイール・アラメントを確認し、調整してください。

#### タイヤチェーン使用時の注意

●タイヤチェーンは、タイヤサイズに適合するサイズのもの、駆動輪または自動車製作者が指定する位置のタイヤに装着してください。

●装着可能なタイヤチェーンについては、販売店・タイヤチェーン製造元等にご相談の上、車両と干渉しないことを必ず現車確認してください。

●タイヤチェーンを装着して積載または凍結していない道路を走行すると、タイヤ、タイヤチェーンおよび車両を損傷したり、スリップするおそれがあるため、避けてください。

●タイヤチェーンは冬季の積雪路および凍結路走行時は、金属製チェーンでは30km/h以下、非金属製チェーンでは50km/h以下の速度をお守りください。

#### ブレーキテスター使用上の注意

○タイヤがロックした時は、できるだけ早くブレーキをはなしてください。ブレーキテスター上で長時間タイヤをロックさせると、タイヤ損傷に至る場合があります。

#### 焼印の押し方

○管理のため焼印を押し出す時は、焼印からのクラックを防止するため、位置はリムライン付近なるべく浅く押し込んでください。

#### その他の注意

**▲警告** ○リッドグループ、穴あけ等の加工をしたタイヤは、損傷し、事故につながるおそれがあるので、使用しないでください。

●低底化、積載効率向上をはかると同時に既存のトラック・バスに新たにロープアールタイヤを装着される場合は、「車両改造変更申請」で、陸運省の認可が必要です。なお、タイヤ外径が小さくなるため、エンジン回転数の増加や、スピードメーターの値が上がりやすくなります。詳しくは、プリチストンの販売会社、またはカーディーラーにお問い合わせください。

#### リドレッドタイヤ選定・使用上の留意点

●リドレッドタイヤ選定の留意点

●リドレッドタイヤは摩耗したタイヤに用いて(以下台タイヤと表現します)、トレッド面に新しいパターン(模様)を形成して製造します。

●リドレッドタイヤでは用いた台タイヤを明らかにするために台タイヤに刻印されている表示を残し、リドレッド部分に表示を加えています。

●リドレッドタイヤは次の留意事項に注意してください。

●リドレッドタイヤのタイヤサイズ、タイヤ製造表示

●リドレッドタイヤのタイヤの基本構造は台タイヤのオリジナル表示を用います。

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例

●リドレッドタイヤの表示例